

※ 海外ニュース ※

ドイツ 2017年12月18日 Verkehrs Rundschau

■ 連邦参議院、環境にやさしい通行料制度のEU案を支持

BUNDESRAT UNTERSTÜTZT EU-PLÄNE FÜR EINE UMWELTFREUNDLICHERE MAUT

欧州委員会の指令案は、今後は期間ではなく走行距離に応じて通行料が徴収されるというものである。具体的には、トラックとバスの期間指定料金を2023年までに廃止し、その後、乗用車や小型輸送車に対象を広げる考えだ。2028年1月1日以降は、走行距離による料金システムに一本化する。さらにこの指令案では、郊外の交通の渋滞税引き上げを可能にすることが目指されている。こちらはすべての車両クラスで同額になる予定。渋滞や交通による環境被害を特に受けている地域では、料金の引き上げが可能だ。

イギリス (EU) 2017年12月19日 Traffic Technology Today

■ EUの『イン・レーン』プロジェクト、オランダで車線レベルの新ナビゲーションシステムの実験を実施

European inLane project tests new lane-level navigation system in the Netherlands

欧州地球航法衛星システム (EGNSS) 機関が資金援助する『イン・レーン』プロジェクトは、EUの測位衛星『ガリレオ』とから得られるEGNSSのデータとコンピュータ・ビジョン技術を融合させた、新世代の、低コストで、車線レベルの、精密な進路変更ごとのナビゲーション・アプリケーションを提案している。これによって、クラウドソーシングに基づく新世代の拡張マッピング情報が入手可能になる。車線レベルの情報が車載ナビゲーションシステムに届くことで、混雑した都市部の交通においてさえも、また郊外の道路でも、ドライバーは最適な車線を選択する機会を与えられる。それぞれのドライバーが適切な車線を選択できるようになるので、実際の車線変更といった危険行為に巻き込まれるリスクが減ると期待されている。

イタリア (アラブ首長国連邦) 2017年12月20日 La Repubblica

■ 無謀運転ドライバーの存在を他のドライバーに知らせるシステムが登場

Guidatori spericolati? Arriva il sistema che avvisa gli altri

無謀な、攻撃的な、注意散漫な、あるいは単に「下手な」運転をするドライバー。走行中の道路にこのようなドライバーがいることを知らせてくれるシステムがあれば、その区間に接近しないようにして事故が防げるかもしれない。このアイデアはアラブ首長国連邦のシャルジャ・アメリカン大学でコンピュータサイエンスを専攻する4人の学生によるものだ。彼らは潜在的に危険な運転をするドライバーの行動を封じるとともに、他のドライバーに警告を発するシステムを開発した。しかも警告は半径数キロメートル離れた場所まで届く。

イタリア 2017年12月29日 La Repubblica

■ ヨーロッパ中を電気自動車で旅するという夢も実現可能に

Viaggiare in Europa con l'auto elettrica, sogno possibile

電気自動車向けの超高速充電ステーションが300km以内の間隔で設置され始めた。これで国境を越えた長距離の走行も可能になる。この構想はイタリアの電力大手エネルが調整役となり、フランスの電力会社EDF、フランスの配電会社Enerdis、オーストリアの電力会社フェアブント、日産、ルノー、スペインの充電機器管理会社Ibilと連携し、欧州委員会が共同出資する。出資総額690万ユーロを想定しており、14カ所に超高速充電ステーションを設置する。本プロジェクトは『E ヴィア・フレックス E モビリティ・イン・イタリアー、フランス、スペイン』と名付けられ、イタリアに8カ所、スペインに4カ所、フランスに2カ所、150～350kWの高出力の充電ステーションが設置される予定。

アメリカ 2018年1月5日 The Journal News

■ ニューヨーク州のウエストチェスター郡とロング・アイランドをつなぐ海底トンネル案、工費は最大550億ドルとの調査結果

Westchester to Long Island tunnel would cost up to \$55 billion, study shows

この調査では、ロングアイランド湾横断トンネル計画は技術的に実現可能であり、移動時間の短縮、渋滞の低減、大気汚染の改善が期待されることが明らかになった。莫大な費用が掛かるため、民間会社1社がこれを負担する可能性は低い、官民協働ならある一定の条件下で可能かもしれないと、報告書には書かれている。クオモ州知事はこのトンネル案を「革新的」と歓迎している。「海中トンネルですから周辺の景観を損ないません。実現すればロング・アイランド・エクスプレスウェイの信じがたいほどの渋滞も減るでしょう」。

ドイツ 2018年1月8日 Verkehrs Rundschau

■ ノルトライン＝ヴェストファーレン州、輸入鋼材を用いた道路橋建設を州交通相が肯定

NRW-VERKEHRSMINISTER RECHTFERTIGT BAU VON AUTOBAHNBRÜCKE MIT IMPORT-STAHL

ノルトライン＝ヴェストファーレン州のヘンドリック・ヴェスト交通相（キリスト教民主同盟）は、レバークーゼンのライン川橋梁（アウトバーン1号線）の新規建設について、中国製の輸入鋼材を使うことを是認した。鋼材の品質、および品質基準の順守は、州道路管理会社のStraßen.NRWが現地で検査すると、州交通相は月曜日にデュッセルドルフで語った。同州の橋梁は過去にも、シベリア、イタリアなどの国外製鋼材が使われていると交通相は説明した。

アメリカ（ドイツ） 2018年1月8日 Automotive News

■ ZF社が車載電子決済プラットフォームを7～9月に発売

ZF's mobility payment platform hits market in Q3

ドイツの自動車部品サプライヤーであるZFフリードリヒスハーフェン社が、車載電子決済システム『カー e ウォレット』を、ドイツ国内で今年の7～9月に発売すると発表した。『カー e ウォレット』はIBM、UBSと連携によって開発された。金融サービス会社UBSは、電気自動車の充電代や、道路利用料、駐車料金の自動決済を担当する。サービス開始時の提携会社は、ヨーロッパの駐車場管理会社APCOA社と、電気自動車向け充電ステーションを運営するチャージポイント社だ。

フランス 2018年1月9日 Le Figaro

■ 交通安全：首相府、準幹線道路の法定速度を時速80kmに引き下げることを確認

Sécurité routière : Matignon confirme la limitation à 80 km/h sur le réseau secondaire

エドゥアール・フィリップ首相は火曜日に開催された交通安全省庁間会議（CISR）のあと、準幹線クラスの対面通行道路（中央分離帯や分離フェンスがない道路）の法定速度を今年7月1日より時速90kmから80kmに公式に引き下げる措置の実施を発表した。幹線道路上の交通事故死亡者数は3年連続で増加しており、政府はショック療法となる「強力な」措置を迅速に講じようとしているのだ。対象となる道路の総延長は40万km。だが、首相によれば「年間350から400の命」を救うであろうこの措置は、中央分離帯がない4車線道路には適用されず、そうした道路の法定速度は時速90kmに据え置かれる。首相はまた、「更新のための見直し条項」に基づき、2020年7月1日に当措置の効果を評価するとも述べた。

セルビア 2018年1月9日 SeeNews

■ セルビア政府がデロイトを有料道路運営会社再建のアドバイザーに採用

Serbia hires Deloitte as adviser in toll-road operator restructuring

セルビアのインフラ省は、国有の有料道路運営会社Putevi Srbijeの再建プロジェクトに関するアドバイザー

として、デロイトと契約した。Putevi Srbije の再建は、世界銀行が汎ヨーロッパ回廊 10 号線のセルビアを通る区間の建設資金を融資する際の合意事項において、想定されていた。汎ヨーロッパ回廊 10 号線は、オーストリアのザルツブルクから、スロベニア、クロアチア、セルビア、マケドニアを通して、ギリシアのテッサロニキ港までをつなぐ道路として計画されている。

アメリカ 2018 年 1 月 9 日 Stateline

■ 2018 年、有料道路は増加し、料率も引き上げ傾向に

New, Higher Tolls for 2018

新規に計画されているもの全てを追跡するのは難しいが、今年はフロリダからコロラドまで少なくとも 6 つの州が、今まで無料だった道路の有料化や、有料専用車線の建設を計画しており、来年はさらに多くの同様の計画が予定されている。このことは、アメリカ経済が比較的好調であるにもかかわらず、道路、橋梁、トンネルの供給といった州政府による最も基本的なサービスに充てる資金が、未だに厳しい状態にあることの表れである。インフラの劣化が進み、多くの州で予算が赤字寸前の状態にあり、そして燃費の良い車種への人気の高まりがガソリン税の税収減を招いている今、多くの政府機関が道路利用料金に注目している。

マレーシア 2018 年 1 月 10 日 Free Malaysia Today

■ マハティール元首相、マレーシアの高速道路利用料金は世界一安いと現行の料率を擁護

Dr M defends highway toll rates, says lowest in the world

マハティール・ビン・モハマド元首相は、ナジブ・ラザク首相から「すべての道路料金の父」と批判されてからわずか数日後の今日、道路利用者から料金を徴収するという当時の政権の方針を擁護した。マハティール氏は、以前日本に旅行したとき橋の通過に法外な料金を取られたことを引き合いに出し、マレーシアの道路利用料金は世界で最も安いと主張した。先週、ナジブ首相は、既存の有料の公道を無料化または料金の引き下げに取り組んでいる自らの政権に引きかえ、現在は野党「希望連盟」の党首であるマハティール氏を偽善者だと糾弾した。ナジブ首相は 1 月 1 日付で、セランゴール州、ジョホール州、ケダ州の 4 カ所での道路利用料金の徴収を廃止した。